

津港杉森ガ杉ノ末ノ誤デアッタトシテモ昔其處ニ自生ノひうがみづきガアッタコトヲ斷定スル譯ニハユカナイシ、現在モ亦無イノガ本當ラシイ、ソレデ今ノトコロ吉永氏ガ始メテ見付ケラレタ大江山ノ北麓ガコノ植物ノ自生地デアアルコトニナル、私ハ今マデ自生地ノ判ラナカッタ栽培植物ガ一ツ減ッタノヲ喜ブモノデアアル此ノひうがみづきヲ一番最初ニ植物學的ニ研究シ之レニ新學名ヲ命ジ圖說シタノハツツカリニ氏デソレガシールト、ツツカリニ合著ノ Flora Japonica ニ出テ居ルカラ參考ノ爲メ此ニ其圖ヲ縮寫シテ掲ゲタ(前頁)、ソレガ今カラ九十三年程前ノ事デアアル

(附記)私ノ知人デ峰山ニキル人ノ談デハ、ソノ人ノ生地ナル與謝半島ノ岩瀧町男山ノ山ノ中ニモソノヤウナ木ガアツテヨク薪トシテ刈ッテ來タモノダト云フコトダカラ或ハ與謝半島ノ方面ヤ又西ノ方但馬ノ方面ニモ亦無イトモ限ギラナイヤウデアアル

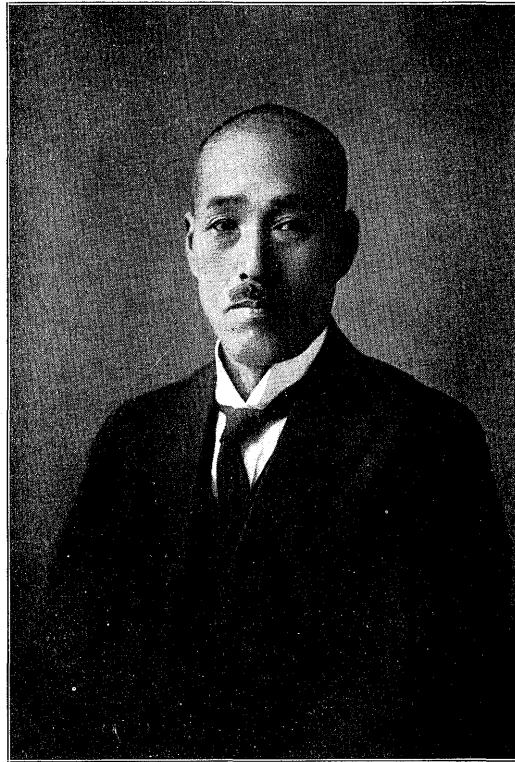
【牧野曰フ】 ひうがみづきノ和名ニ就テハ本誌第三卷第十一號(275)頁ニ愚見ヲ陳ベテ置イタ

## ○珍ラシク海南ノ土佐デ見ルたうせんだんトしろばなせんだん

土佐高知 吉 永 虎 馬

本邦ニ産スルせんだん屬 (Melia) ニ屬スル植物ニシテ現時知ラレタルモノ四種アリ、即せんだん (Melia Azedarach L. var. japonica MAKINO.) しろばなせんだん (M. Azedarach L. var. japonica MAKINO f. albiflora MAKINO.) たうせんだん (M. Azedarach L. var. japonica MAKINO subvar. Toosendan MAKINO.) くらせんだん (M. Azedarach L. var. japonica MAKINO subvar. semperflorens MAKINO.) 是レナリ、而シテせんだんハ最モ普通ノ品種ニシテ本州中部以南ニ於テハ諸處ニ之ヲ見ルヲ得ベキモ他ノ三種ハ何レモ稀品ニ屬セリ、就中たうせんだんハ初メテ SEIBOLD ET ZUCCARINI'S Florae Japonicae Familiae Naturales, I. p. 159. (1843) ニ於テ

珍ラシク海南ノ土佐デ見ルたうせんだんとしろばなせんだん



吉永虎馬君

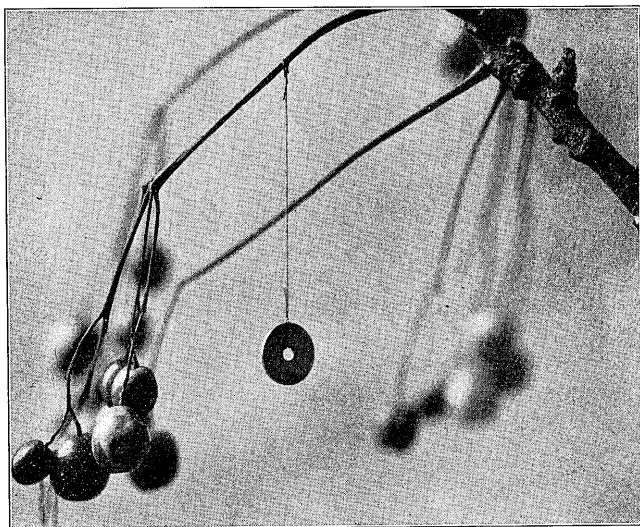
(昭和二年二月一日、土佐高知市、欄橋寫眞館撮影)

ミ帝國大學及新宿御苑、臺灣總督府等ヨリ標本、果實等送附ノ依頼ヲ受テ之ヲ送り又縣外ヨリ植物學者ノ來ルアレバ本縣植物界ノ誇トシテ必ズ此處ニ導キ實見ニ供スルヲ常トシタリキ、先年牧野氏歸縣ノ際ニハ、當時帝國大學ニ於テ氏ニ依リテ著述セラレツ、アリシ大日本植物志ニ之ヲ圖載シテ發表セシガ爲メ他日晩春開花ノ節ヲ期シ再ビ歸縣セントスルノ希望アルコトヲモ語ラレタルコトアリキ、前述セル如ク本株ハ此ノ稀有品種ノ當時本邦内ニ於テ知ラレタル唯一ノモノナルヲ以テ予ハ實ニ名木トシテ保護スベキ充分ナル價值アルヲ信ジ屢ミ

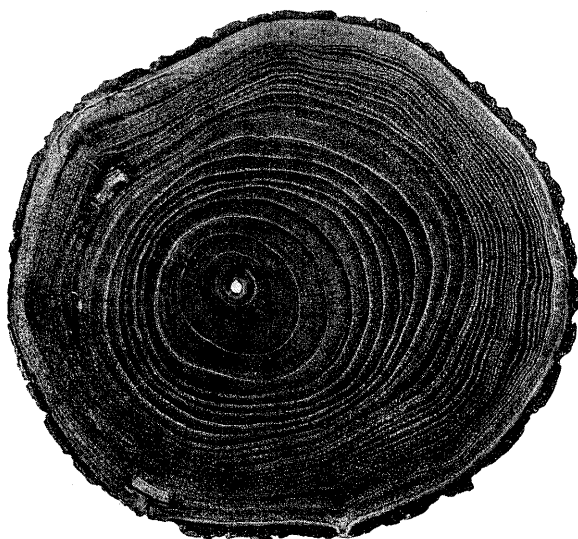
學界ニ紹介セラレテ以來 Miquel, De Candolle 其他諸學者ノ著書ニ引用記載セラレ、ニ拘ラズ其ノ產地ノ明確ニ知ラル、モノ殆ンド之レナク從來唯僅ニ此ノ海南高知縣ノ地ニ於テ其ノ一株ヲ認ムルノミナリキ、即長岡郡五臺山村吸江(高知ノツバキ)青柳橋畔ニ於テ普通種ノせんだんと相並ビテ栽エラレタルモノ是レナリキ

抑ミ此本邦產植物中稀有ノ品種タル本株ガ我土佐ニ現存スルコトヲ初メテ認メタルハ實ニ我恩師牧野富太郎氏ニシテ爾來學界ニ於ケル奇品トシテ斯學者間ニ知ラル、ニ至レリ、サレバ予ハ屢

珍ラシク海南ノ土佐デ見ルたうせんだんとしるばなせんだん



たうせんだん (*Melia Azedarach* L. var. *japonica* MAK. subvar. *Toosendan* MAK.) ノ果實、果實ト其大サヲ比較スル  
爲メ吊リ下ゲタルハ十錢白銅貨  
(大正十五年十二月、土佐高知吸江青柳園畔ニテ撮影、縮小)



たうせんだん (*Melia Azedarach* L. var. *japonica* MAK. subvar. *Toosendan* MAK.) ノ幹ノ横断面  
(始メテ土佐高知吸江青柳園畔ニテ見出セラレタ株ノ者ニテ  
大正三年九月三十日暴風ノ爲メ倒レタル幹、縮寫)

道路改修等ノ爲ニ濫ニ之ヲ損害セザル様當局者ニ警告ヲ與ヘタルコトアリキ爾後漸次一部人士ノ注意ヲ惹キ年々之ガ果實ヲ採リテ播種シタルモノ尠カラズ特ニ縣廳土木課ニ於テハ盛ニ其ノ苗木ヲ仕立テ學校庭、道路側等

珍ラシク海南ノ土佐デ見ルたうせんだんとしろばなせんだん



たうせんだん (*Melia Azedarach* L. var. *japonica* MAK. subvar. *Toosendan* MAK.) ノ大木

(昭和二年一月、土佐高知市選手館、高知市第三尋常小學校々庭)

校隣地ニ生ズルヲ告ゲタルモノアリキ、次デ同地所有主竹村與右衛門氏ノ息、茂雄氏ハ特ニ其ノ一枝ヲ齎シテ果シテ之ガ該種ナルカヲ質問セラレタリ、就キテ之ヲ觀ルニ其ノ果實並ニ葉形等能ク本種ノ特徵ニ一致シテ疑フベキ餘地ナカリシト雖モ尙其ノ生地ニ到リテ親シク之ヲ見ルニ及ンデ果シテ本株亦たうせんだんナルコトヲ確認スルヲ得タリ、而シテ本株ハ頗ル老大セルモノ、如ク幹圍地上約五尺ノ高サニテ六尺一寸、三尺ノ高サニテ六尺、根廻リ六尺八寸、彼ノ青柳橋畔ノモノ、如キハ其ノ一枝ノ大サニ過ギズ樹勢稍衰ヘタルガ如キ感アリ

ニ栽植シタルヲ以テ各地ニ擴マリ既ニ長ジテ冬季ニ至レバ曇々トシテ夥シキ果實ヲ樹梢ニ着ルヲ見ルニ至レリ、然ルニ此ノ貴重スベキ母樹ハ年ト共ニ漸ク衰兆ヲ呈シ居タルニ不幸ニシテ去ル大正三年九月三十日暴風ノ爲メニ空シク其ノ莖幹ヲ中斷セラレテ再ビ其ノ樹姿ヲ見ルヲ得ザルニ至リシモ爾後其ノ殘存セル舊株ヨリ發芽シタル數枝今ハ已ニ果實ヲ結ブニ至レリ、此ノ母樹切損ノ當時高知新聞紙上ニ「名木折る」ナル記事顯ハレ其ノ最後ヲ惜マレタルニ數日後同紙「葉書便り」中ニ(四十男)ナル匿名ヲ以テたうせんだんノ大木ガ尙市内追手筋第三尋常小學校

ト雖尙年年盛ニ繁茂シ居レリ、寫眞ハ最近結實セル狀態ヲ撮リタルモノナリ

抑々彼ノ青柳橋畔ニ在リシ一株ガ何時如何ニシテ我縣ニ來リシカハ全ク不明ニ屬シ今尙疑問ノ裡ニアリ、而シテ其ノ仆レシ樹幹ニヨリテ年輪ヲ數ヘ約三十餘年ヲ經過セルヲ知レリ、即チ該橋ガ新ニ架設セラレタル頃何處ヨリカ之ガ幼苗ヲ普通種ト共ニ移植シタルモノガ幸ニ生存セシモノナラン、然ルニ追手筋ニ在ル大樹ノ生地ハ舊藩政時代山内家御側醫師タリシ村田玄明氏ノ邸ニ屬セシヲ以テ或ハ同氏一族ノ人ニヨリテ往時長崎ト交通アリシ際同地方面ヨリ藥用植物(川楝子ト稱スルハ即チ是レナリ)トシテ又ハ唐木ノ一ト稱セラレテ我土佐ニ移サレタルニハアラザルカ現ニ同氏ト同僚ナリシ諸氏ノ市内舊邸内ニ往々九州地方ヨリ傳來シタル藥用植物ノ近時迄生存シタルモノアリシトイフ、若シ果シテ九州ヨリ之ガ果實若クハ苗木ヲ齎サレタルモノガ幸ニ生存シテ殘レリトスレバ或ハ青柳橋畔ノモノ、母樹ハ本株ニハアラザリシカ

Miquel 及 De Candolle 氏等ノ本邦產地ヲ掲グルモノ九州長崎及豊前(Fuzen)並ニ箱根ニシテ Siebold 氏ハ其ノ東部支那ヨリ移入セラレタルカヲ信ジ又 Miquel 氏ハ豊前ガ其ノ自生他ナランカヲ疑ヘリ而シテ箱根ハ何カノ誤ナルベシ、Diels 氏ノ中央支那ノ植物志ニハ明ニ本種ガ支那地方ニ産スルコトヲ記サレ居レリ原來せんだんハ其ノ生長極メテ速カニシテ數年ヲ經過スレバ已ニ相當ノ大ニ達ス、而シテ萌發後四五年間ハ特ニ其ノ長大トナルコト著シたうぜんだんニ於ケル亦同一ナリ、予ガ去ル明治四十一年春種子ヨリ萌發シタルモノニシテ一度其ノ原生地ヨリ他ニ移植シタルモノニ就キテ其ノ幹圍ヲ計リシニ左ノ如シ

根廻リ四尺六寸、幹圍二尺ノ高テニ三尺五寸、目通りニテ二尺九寸

たうせんだんヲぜんだんと分ツ特徴ノ一トシテ其ノ葉ノ全邊ニシテ鋸齒ヲ有セザルコトヲ擧グ然レドモ之ハ其ノ成長シタル樹ニ着キタル老成葉ノ場合ニ限レリ而シテ其ノ幼齡特ニ萌發後少時ヲ經タルモノ、葉ニハせんだんノ如ク同ジク鋸齒ヲ有スルヲ以テ單ニ此ノ點ヲ以テシテハ其兩者ヲ別チ能ハザルコトアリ

珍ラシク海南ノ土佐デ見ルたうせんだんとしろばせんだん

(表 甲)

計	9	8	7	6	5	縦溝ノ數	果實ノ數
118	2	8	41	60	7		

(表 乙)

計	8	7	6	5	縦溝ノ數	果實ノ數
57	2	24	29	2		

(表 丙)

計	6	5	4	3	縦溝ノ數	果實ノ數
100	2	69	28	1		

スレバ下ノ如シ  
セルモノナリ)

(本調査ハ果實ノ既ニ熟シテ稍乾燥シタルモノニ就キテ行ヒタルヲ以テ實際ヨリハ少シク縮小

甲表ハ追手筋第三尋常小學校庭ノ樹、乙表ハ高知第一高等女學校庭ノ樹ヨリ得タル果實ニヨリタルモノニシテ  
後者ハ五臺山村産ノ種子ヨリ萌發シタルモノナリ、而シテ丙表ハ高知第一高等女學校庭ニアル普通ノせんだん

ノ果實ヲ計リタルナリ

五臺山並ニ第三尋常小學校庭ノたうせんだんノ果實ハ著シク大ナレドモ其ノ種子ヲ播キテ得タル樹ニ結實セル  
モノハ何レモ其ノ大サ彼レニ及バズシテ小ナリたうせんだんノ核ハ六乃至八室ヲ有  
スル爲其ノ外面ニ同數ノ縦溝ヲ有ス  
ルコトハ能ク原記載ニ合シせんだん  
ノ五縦溝ノ普通ナルトハ異レリ今左  
ニ調査シタルモノ、數ヲ舉ゲン  
甲表ハ五臺山産母樹ノ種子ヨリ萌發  
シタル樹ニ生ジタル果實ニシテ、乙  
表ハ五臺山母樹ノ果實ナリ、又丙表  
ハ普通ノせんだんニ就キテ調べタル  
モノナリ尙たうせんだんとせんだんとノ果實  
ノ大サヲ比較調査シタルモノヲ表示

(表 甲) 徑 縦

計	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	ミ リ ト ル
											果 實 ノ 數
100	1	1	12	13	36	11	15	6	2	3	

(表 甲) 徑 横

計	23	22	21	20	19	18	17	16	ミ リ ト ル
									果 實 ノ 數
100	2	2	7	28	20	25	12	4	

(表 乙) 徑 縦

計	23	22	21	20	19	18	17	16	15	ミ リ ト ル
										果 實 ノ 數
100	4	6	15	18	15	20	10	5	7	

(表 乙) 徑 横

計	20	19	18	17	16	15	14	13	12	ミ リ ト ル
										果 實 ノ 數
100	1	2	11	25	23	26	7	4	1	

(表 丙) 徑 縦

計	18	17	16	15	14	13	12	11	ミ リ ト ル
									果 實 ノ 數
100	3	6	21	36	23	7	3	1	

珍ラシク海南ノ土佐デ見ルたうせんだんトしろばなせんだん

(表 丙) 横 徑

計	15	14	13	12	11	10	9	トメル	ミリ
100	2	16	44	31	4	2	1		果實ノ數

珍ラシク海南ノ土佐デ見ルたうせんだんしろばなせんだん

しろばなせんだん (Melia Azedarach L. var. japonica Makino f. albiflora Makino.)  
ハ初メ牧野氏ニヨリテ本縣高岡郡佐川町猿丸坂頭上舊、東光寺ノ在リシ地ニ於テ發見セラレタル一品種ニシテ其ノ雪白花ヲ着クルヲ以テ著シ、而シテ他形態ノ如キハ普通種ト殆ンド異ルコトナシ

本種ハ其ノ數又極メテ少クシテ今知ラレタルモノ他ニ吾川郡神谷村尋常高等小學校庭内ニ數株、高岡郡日下村笹木越縣道傍ニ一株アリ、而シテ佐川町ノモノハ老樹ナレドモ大ナラズ神谷村ノモノ最モ大ニシテ且樹勢旺ナリ、嘗テ同校ニ奉職セラレタル現本縣立中村中學校教諭永野七郎氏ノ予ノ請ヲ容レテ計ラレタル幹圍左ノ如シ (大正十五年五月二十一日附同氏ノ來信ニヨル)

白花のもの學校に七本學校前店屋に一本、その他にも (調べたのではないのですが) 神谷三瀬あたりにあり又あつたそうです

◎大 目通り七尺 根元一〇、五尺

割合古いやうで可成の老人などにきいて見ても何時植ゑたかわからないやうです七十程の人にきいても若い時からあつたといふから五十年もへてゐないでせうか

◎小

A 目通(二、七尺) 根元(三、三尺) B (四、四尺) C (三、七尺) D (四、一尺) E (四、二尺) 道路傍にあるもの (三、五尺) (三、九尺)

A から E まででは六尺以上も埋つてゐるわけですからそれで根元の却つて小さいものもありますこれは日露戦争の紀念に植ゑたといふから約二十年をへたわけですから大きなものゝ種子らしいのです